JSR株式会社

JSR グループ

CSR レポート 2016

JSR

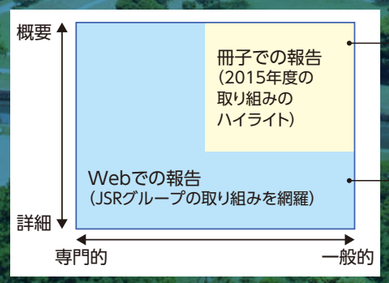
Materials Innovation ——

気候変動や資源、生物多様性保全などの地球環境問題、
安全な水や食糧、医療など健康や生命に関わる問題、
そしてすべての人が尊重され、将来の希望が持てる社会の実現という課題。
こういった多くの問題や課題に対峙し、
世の中をより良くするための製品やしくみを下支えしているのが、
様々なMaterials(マテリアル)=素材・部材です。
JSR グループは、化学の潜在力を引き出してマテリアルの新たな可能性を追求し、
持続可能な地球環境や社会の実現に貢献することで、
自らも成長し続ける企業でありたいと考えています。
「Materials Innovation—マテリアルを通じて価値を創造し、
人間社会(人・社会・環境)に貢献します。」という企業理念の実践、
それは事業活動とCSRが一体となって初めて可能になることだと考えています。

本レポートの構成

「CSRレポート2016」はWeb版と冊子版を発行しています。
Web版：JSRグループのCSRの取り組みを網羅して報告しています。
http://www.jsr.co.jp/csr/
冊 子 版：JSRグループのCSRの取り組みの中から、2015年度の取り組みのハイライトを報告しています。

なお、CSR以外の企業情報(製品・サービス・財務情報など)は、JSRホームページに掲載されています。
http://www.jsr.co.jp/



Web版

http://www.jsr.co.jp/csr/csrreport2016.shtml

冊子版

編集方針

JSRグループは企業理念「Materials Innovation ── マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会（人・社会・環境）に貢献します。」に立脚して様々なステークホルダーとの良好な関係を築き、信頼され、必要とされる企業市民になることを目指しています。そのために企業理念を実践する経営とCSRを一体のものと捉え、社会的重要課題の解決に取り組んでいます。
2015年度は、CSRの重要課題の特定をはじめて行い、特定した4課題を中心に取り組みを進めてまいりました。そのうえで、重要課題の特定過程の透明性や納得性を高めることによりわれわれのCSRのレベルのさらなる向上を目指し、様々なステークホルダーの方々から意見聴取をするとともに、有識者との対話会を実施しました。
本レポートでは、2015年度のわれわれのCSRの取り組みを、対話会等を通じて整理し直した切り口に沿ってステークホルダーの皆様にお伝えすることを目的にしています。
Web版では、全体像をご理解いただけるよう、4つの重要課題「安全・防災」「環境負荷低減・省資源・気候変動対策」「健康長寿社会」「ステークホルダーとのコミュニケーション」の取り組みを中心に、データとともに詳しく報告しています。冊子版は、2015年度の取り組みのハイライトに絞り、分かりやすく説明することを意識して作成いたしました。

第三者検証

● 第三者検証　一般社団法人 日本化学工業協会 レスポンシブル・ケア検証センター（第三者検証意見書をWeb版に掲載）

参考にしたガイドライン

● GRI（Global Reporting Initiative）
「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン（第4版）」
● 一般社団法人 日本化学工業協会「化学企業のための環境会計ガイドライン」
● 環境省「環境会計ガイドライン（2005年版）」、
「環境報告ガイドライン（2012年版）」
※GRIガイドラインと本レポートの対応については、Web版で公開しています。

対象期間

2015年4月1日～2016年3月31日
（報告の一部に、2016年4月以降の活動と取り組み内容も含みます）

対象範囲

JSR株式会社およびグループ企業49社、合計50社
● RC（環境・安全・健康）報告のデータ収集範囲
・本社、四日市工場、千葉工場、鹿島工場、機能高分子研究所、ディスプレイ材料研究所、精密電子研究所、先端材料研究所、筑波研究所
・国内グループ企業 14社、および海外グループ企業10社*
＊P.17～18「JSRグループ一覧」の※印参照

発行情報

発行日　2016年7月
次回発行予定　2017年7月
（前回発行　2015年7月）

レスポンシブル・ケアとは
（本レポートの中では「RC」と表記します）

化学工業界では、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動を展開しています。この活動を『レスポンシブル・ケア（Responsible Care）』と呼んでいます。

出典：一般社団法人 日本化学工業協会パンフレット「レスポンシブル・ケアを知っていますか?」

RCに関する情報や各種データはWeb版に掲載されています

レスポンシブル・ケア®

Contents

1 本レポートの構成
2 編集方針
3 トップコミットメント
5 ステークホルダーとの対話
～JSRグループが考える重要課題の検証とそのプロセス～
7 JSRグループのCSR
9 安全・防災
11 環境負荷低減・省資源・気候変動対策
13 健康長寿社会
15 ステークホルダーとのコミュニケーション
17 社外からの評価/JSRグループ概要

国連グローバル・コンパクトへの参加

JSRグループは、2009年4月14日付で、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しました。企業の社会的責任が強く求められる中、グローバルに事業活動する企業として、グローバル・コンパクト10原則が謳う人権・労働・環境・腐敗防止へのより一層の配慮が必要と認識しています。私たちはグローバル・コンパクトへの参加を国際社会の中で責任ある行動を実践するための「宣言」と位置づけ、より積極的に「企業の社会的責任」を果たしていきます。

UN GLOBAL COMPACT
Network Japan
WE SUPPORT

Top Commitment

トップコミットメント

経営とCSRの一体化をさらに推進し、「Materials Innovation」を通して社会における存在意義を高めます

先の見えないグローバルの変化に対応する企業活動が求められている

現在は、圧倒的な力を持ち世界をけん引するリーダーとなる国がいないGゼロの世界と言われています。地政学的なリスクが顕在化しており、原油価格・資源関連企業の業績変動、世界的に進む企業再編、中国巨大マネーの最先端半導体企業への投資の動き、英国のEU離脱にかかる問題、中東情勢・東アジアの混迷、為替の変動、マイナス金利などが、企業経営や事業展開に大きな影響を及ぼす要因となっています。また、ものを所有する価値観からシェアする価値観への変化など、資本主義経済の姿が変わりつつあります。さらに、IoT、AIをはじめとするデジタル化の急進、インターネットの発達による仮想社会の増大といった、今までにない変化が急激に起きています。日本に目を向けると、少子高齢社会が進んでいます。このような社会の構造的な変化が、企業の在り方、個人の価値観、企業と個人の関係を大きく変えようとしているのが現在です。

これらの社会の変化に対応していくためには、社会課題をきちんととらえ経営に盛り込んでいく、経営とCSRの一体化をより一層深化させていかなければなりません。

今、JSRグループが目指すべき課題とは

2015年度は「成長軌道へ」の期間と位置づけた「中期経営計画JSR20i6」の中間地点でした。

石油化学系事業は、合成樹脂事業が健闘したものの、エラストマー事業が国内タイヤ需要低迷、アジア市場の成長減速で販売数量減、加えて市況悪化が継続し減収減益となりました。多角化事業は、ライフサイエンス事業が大きく伸張しましたが、ディスプレイ材料における顧客市場減速の影響が大きく、減収減益となりました。

それぞれの事業においては、国内外における合弁会社の設立や新工場の建設、また資本関係、事業のベースとなる体制の見直しなどを進めました。目標としている財務数値などに向けて、現状の事業展開のミッションは今後も粛々と進めていきたいと考えています。

グローバルに目を向けると、現在、グループ従業員7,000人超のうち約2,300人が海外で働いており、売り上げも約55%を海外が占める状況になっています。今までは日本を中心に各地域を点と点で結ぶ形でグローバル展開を進めてきましたが、今後は、一番大事な市場に意思決定できる拠点を設け、それらの拠点がメッシュで結びついているような新しい形のグローバル対応を進めていきます。

JSRグループは、2017年に60周年を迎えますが、私は、その次の60年に向けての新しい動きを、今、始める必要があると考えています。そしてこの次の60年の経営そしてCSRの課題を考えるにあたってのキーワードの一つはサステナビリティ（持続可能性）であり、もう一つのキーワードがイノベーションだと捉えています。この両方が次の60年の経営とCSRの一体化に欠かせないものであると考え、次代を担う人材とともに、JSRグループにとっての新たな方向性を探っていきたいと考えています。

CSR経営の推進

JSRグループは、企業理念「Materials Innovation—マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会（人・社会・環境）に貢献します。」のもと、その実現のための様々な活動を進め、様々なステークホルダーと良好な関係を築き、信頼され必要とされる企業市民になることを目指してきました。

そのために企業理念を実践する経営とCSRを一体のものと捉えて社会的重要課題の解決に取り組んでいます。CSRを、具体的には「攻め（事業戦略）」・「守り（事業基盤）」それぞれの観点から、環境（E）・社会（S）・ガバナンス（G）の3つの軸で整理して取り組んでおり、この考え方はサステナビリティを考えていく上での基本となります。

「攻め」の観点では、E2イニシアティブ®のコンセプトのもと創り出している環境配慮型製品を一層お客様や社会に浸透させるための施策に注力し、またライフサイエンス事業を拡大していくことで、健康長寿社会に求められる新しい価値を持つ製品・サービスを提供していく考えです。

「守り」の観点でも、サプライチェーンマネジメントやレスポンシブル・ケア活動をE・S・Gの3つの軸それぞれの領域で推進してまいります。なお、安全に関しては、化学産業の一員として安全確保が経営の大前提であると認識しており、安全基盤、安全文化の再構築を継続していきます。2015年度は死亡事故など重大災害こそなかったものの、15年8月3日、同年10月6日の 四日市工場において火災が発生しました。迅速な対応を行い、ボヤ程度で鎮火いたしましたが、近隣の住民の方々含めご心配をおかけしましたことをお詫びいたします。今後も安全は化学メーカーとしての第一義と考え、グループを挙げてレベル向上に努めてまいります。

創立60周年を迎えるということは、設備などの老朽化も進んでいるということで、耐震対策を含めた工場の強靭化を引き続き進めていくとともに、古い設備の撤去も考え、次の60年に向けてハード面からも安定、安全操業を目指した取り組みを推進していきます。

「攻め」にしろ「守り」にしろ、サステナブルな企業経営を目指す上で重要なのが人材育成です。これについてはいろいろやってきており、ダイバーシティの面では平成27年度「なでしこ銘柄」に選定されたことは大きな成果と考えています。人材育成については、プライドとモラルの共有が重要です。そのために、社員のみなさんと経営側とのコミュニケーションをさらに進めていき、どんな変化にも対応できる可能性を持つ企業へと進化させていきます。

ステークホルダーへのメッセージ

当社は、グローバル・コンパクトに署名し、10原則を認識してCSRを進めています。特にグローバルに事業を展開する企業として人材の多様化は進めていこうと考えています。ただ多様な人材を新たに採用するだけではなく、社内の人材が持つ多様な能力を発揮してもらうことも考えていきます。変化が速い時代、社内の

人材、特に可能性のある若手を教育して新たな分野に対応できるようにすることは重要です。グループの社員には、既存の枠組みや先入観、固定観念にとらわれない自由な発想、多様な価値観を大事に持ち続けてもらいたいと思います。ガバナンスについては、昨年のコーポレートガバナンスコードの発行を受けて体制の整備を進めました。ここでもガバナンスを支えるのは「人」になります。ここでも一人ひとりのプライドと責任を意識した取り組みが重要と考えています。

化学メーカーとして、安全、そして環境に対する取り組みも引き続き注力していきます。前述のように、安全に関しては、最重要事項として取り組みを推進し、特に地域の住民の方、自治体との綿密なコミュニケーションと迅速かつ透明性の高い情報開示を行っていきます。環境に関しても製品を通じての貢献を進めるのはもちろんのこと、サプライチェーンを含めた資源の有効活用による循環型社会構築や地球規模での大きな課題となっている水資源問題に対する取り組みも進めなければなりません。

2015年12月、フランス・パリで開催されていたCOP21（国連気候変動枠組条約第21回締約国会議）において、2020年以降の温暖化対策の国際枠組み『パリ協定』が正式に採択されました。世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して2℃未満に抑えることが掲げられ、日本は、2030年度に2013年比で温室効果ガスを26%削減、さらに2050年度に80%削減の目標を掲げています。この世界に対する日本の約束を果たしていくために、排出者である企業としてだけでなく、温暖化防止にマテリアルを通じて貢献する企業として取り組みをどう行っていくのかは非常に大きな課題と認識しています。

「Materials Innovation」という企業理念のもと、JSRグループの存在意義を表す言葉を忘れず、より一層の経営とCSRの一体化を通じたサステナブルな社会実現に貢献してまいります。

JSR株式会社 代表取締役社長

小柴満信

ステークホルダーとの対話
(重要課題の検証とそのプロセス)

JSRグループでは、経営とCSRの一体化を意識し、持続可能な地球環境や社会の実現に貢献するという姿勢を示すため、2015年度に初めて重要課題を特定し、CSRレポートで開示しました。
特定した「安全・防災」「省エネルギー・省資源・気候変動対策」「健康長寿社会」「ステークホルダーとのコミュニケーション」という4つの重要課題について、この1年間取り組んでまいりましたが、今後のより詳細かつ具体的なCSR活動につなげていくために、今回、課題検証のため、様々なステークホルダーの方々から意見聴取するとともに、有識者の方々と意見交換を行うことで、JSRグループ自らが事業を通じたCSR活動の重要性を改めて認識し、多くのステークホルダーの皆さまへの情報開示の進化につなげることを目指しています。
今回の対話会を通じて得られた新たな重要課題およびいただいたアドバイス、ご意見は、今後の活動計画の中に盛り込んでいこうと考えております。

〈開催日〉2016年4月19日　〈開催場所〉JSR本社役員会議室

出席した有識者

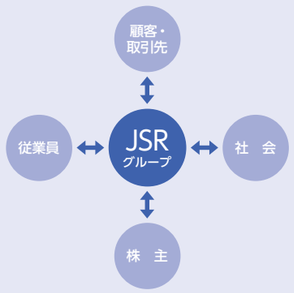
株式会社インテグレックス 代表取締役社長　秋山をね氏
株式会社イースクエア 代表取締役社長　本木啓生氏
特定非営利活動法人経済人コー円卓会議日本委員会ディレクター　野田清穂氏

JSR出席者

平野勇人　取締役(経理・財務、広報、グループ企業、人材開発)
川橋信夫　上席執行役員(研究開発)
中山美加　執行役員(ダイバーシティ推進、経営企画)
捫垣和美　部長(CSR)

JSRグループとステークホルダー

JSRグループでは、経営方針のなかで、「ステークホルダーへの責任」を明らかにしています。



有識者からの主なご意見
(対話全体についてはWeb版に掲載しています)

■企業理念とCSR、社会的課題への取り組みを一体化させ、さらに、一度特定した重要課題に見直しをかけるという姿勢は評価できる。
■CSRの重要課題の特定の過程は、国際的な基準に照らし合わせても評価できるし、掲げられた課題も化学業界において重要である課題が選定されている。
■社会からの期待、社内での重要性ともに最重要として「高機能・高品質・安定供給(研究開発・製造技術)」という本業の強みを重要課題と位置づけているところに“攻めのCSR”の姿勢がよく出ている。
■多様な価値観を受け入れて発想を切り替え新しい価値を創り出していくという取り組みは、国内外を問わず必要不可欠になっている。“グローカル”即ち、グローバルな視野で考えつつ、拠点ごとにローカルな視点で行動することが重要。
■社会的課題は、自社のみでなくバリューチェーン全体の視点で対応することが不可欠。
■投資家は業績だけでなくCSRレポート等で開示される非財務的項目もしっかり評価しており、E(環境)S(社会)G(ガバナンス)をしっかりやり、ベースとなる“守りのCSR”の位置づけも忘れずに意識するとともに、CSRの継続したレベルアップが必要。
■10～20年先の事業展開についてのシナリオや社会ビジョンを示し、その実現のための事業やCSRという文脈で語るとJSRグループのCSRコミュニケーションがやりやすいと思う。
■ステークホルダーとの対話を通じた相互理解も重視すべき。

JSRグループが取り組むべき重要課題

解決すべき世の中の社会的課題から、JSRグループが取り組むべき重要課題を抽出しました。様々なステークホルダーからの意見、有識者意見を取り入れ、2016年度は下記の通りとしました。

安全・防災

JSRグループの重要課題が国際的な基準に照らし合わせても評価できるとの有識者のご意見があり、引き続き重要課題とします。

- 環境・安全マネジメント
- 安全衛生の取り組み

環境負荷低減・省資源・気候変動対策

2015年度の「省エネルギー・省資源・気候変動対策」から、「環境負荷低減・省資源・気候変動対策」としました。環境負荷低減には、攻めのCSRである環境配慮型製品の開発等研究開発を含むこととし、本業の強みを明確にしました。

- 環境・安全マネジメント　• 環境負荷低減
- 資源循環　• 気候変動対策　• E2イニシアティブ®
- 生物多様性保全　• 環境配慮型製品(研究開発)

健康長寿社会

10～20年後の事業展開、社会ビジョンを実現する重要課題であるため、引き続き重要課題とします。

- ライフサイエンス事業(研究開発)

ステークホルダーとのコミュニケーション

グローバル企業として多様な価値観を受入れて発想を切り替え新しい価値を創り出していく取り組みが必要であり、また人権についても、サプライチェーンでの取り組みが必要とのご意見があり、継続して重要課題とします。

- 顧客満足　• サプライチェーンマネジメント
- 従業員の人権、体と心の健康、ワークライフバランス、人材育成、多様性、労働慣行
- 地域・社会とのコミュニケーション
- 株主とのコミュニケーション

CSRの基盤

ESGの観点から他の重要課題を支えるものとして重要とのご意見があり、「CSRの基盤」を改めて追加します。

- CSRマネジメント　• コーポレート・ガバナンス　• コンプライアンス　• リスク管理　• 情報セキュリティ

■国連グローバル・コンパクトへの参加

JSRグループは、2009年4月、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に参加しました。企業の社会的責任が強く求められる中、グローバルに事業活動する企業として、グローバル・コンパクト10原則が謳う人権・労働・環境・腐敗防止へのより一層の配慮が必要と認識しています。私たちはグローバル・コンパクトへの参加を国際社会の中で責任ある行動を実践するための「宣言」と位置づけ、より積極的に「企業の社会的責任」を果たしていきます。

UN GLOBAL COMPACT
Network Japan
WE SUPPORT

グローバル・コンパクトの10原則

❶人権擁護の支持と尊重
❷人権侵害への非加担
❸結社の自由と団体交渉権の承認
❹強制労働の排除
❺児童労働の実効的な廃止
❻雇用と職業の差別撤廃
❼環境問題の予防的アプローチ
❽環境に対する責任のイニシアティブ
❾環境にやさしい技術の開発と普及
❿強要や賄賂を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み

■国連持続可能な開発目標(SDGs)

2015年9月の国連総会で採択された、極度の貧困、不平等・不正義をなくす、深刻化する環境問題への対応等、全世界が取り組むべき17の目標。

JSRグループのCSR

経営とCSRが一体となって、社会にも、JSRグループにも利益を創出し、持続可能な地球環境や社会の実現に貢献する。

JSRグループは企業理念「Materials Innovation―マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会（人・社会・環境）に貢献します。」に立脚して様々なステークホルダーとの良好な関係を築き、信頼され、必要とされる企業市民になることを目指しています。そのために企業理念を実践する経営とCSRを一体のものと捉え、社会的重要課題の解決に取り組みます。

JSRの企業理念と重要課題

企業理念

Materials Innovation
マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会（人・社会・環境）に貢献します。

経営方針 ―変わらぬ経営の軸

- 絶え間ない事業創造
- 企業風土の進化
- 企業価値の増大

経営方針 ―ステークホルダーへの責任

- 顧客・取引先への責任
- 従業員への責任
- 社会への責任
- 株主への責任

行動指針 4つの“C”

CHALLENGE（挑戦）
COMMUNICATION（対話）
COLLABORATION（協働）
CULTIVATION（共育）

解決すべき世の中の社会的課題

エネルギー・資源・水・食糧・生物多様性・防災安全・健康・高齢社会・気候変動・人権

国連グローバル・コンパクト
国連持続可能な開発目標（SDGs）

事業戦略

企業理念・経営方針に基づき
事業を通じて社会的課題に応える
中期経営計画（2014年度～2016年度）

JSR 20i6 Materials Innovation

2020年のあるべき姿の実現に向けて、今、何をすべきかを具体的に示して事業の推進を図る

事業基盤

事業戦略を推進するための
基盤となる必須事項であり、
この実践が無ければ
企業経営は成り立たない

守りのCSR

持続可能な事業活動を支える基盤となるもの

攻めのCSR

事業を通じて社会課題の解決を目指す

JSRグループが製品を送り出すとき、常に意識する環境ラベルをクリアするために E2イニシアティブ®

石油化学系事業
低燃費タイヤ用合成ゴム（S-SBR）をはじめ、社会の課題、マーケットのニーズを捉えて、それに応える新しい価値をもった製品をグローバルに展開していく

ファイン事業
最先端技術をグローバルに展開することで、さらに伸張するデジタル産業・IT社会を高い品質で支え、社会の利便性向上に貢献していく

戦略事業
大きな社会課題である環境・高齢化に対し、素材と技術の組み合わせで答えを導き、人や地球環境に優しいエネルギー社会と、健康で豊かな暮らしに貢献することを目指す

サプライチェーンマネジメント
顧客に対する製品の品質確保と安定供給のために、お取引先様でのCSRの取り組みなどに基準を設け、サプライチェーン全体での価値向上を図る

環境・安全・健康面での自主管理活動（レスポンシブル・ケア）
全てのステークホルダーの環境・安全・健康を守るため化学メーカーとして取り組む

法令遵守（コンプライアンス）
信頼される企業であるためにルールとモラルを守っていく

組織統治（ガバナンス）
社会や様々なステークホルダーにとって存在価値のある企業であり続ける

人権
全てのステークホルダーに対し、企業市民として常に人を思い、人を尊重する

JSRグループの重要課題

安全・防災
- 環境・安全マネジメント
- 安全衛生の取り組み

環境負荷低減・省資源・気候変動対策
- 環境・安全マネジメント
- 環境負荷低減
- 資源循環
- 気候変動対策
- E2イニシアティブ®
- 生物多様性保全
- 環境配慮型製品（研究開発）

健康長寿社会
- ライフサイエンス事業（研究開発）

ステークホルダーとのコミュニケーション
- 顧客満足
- サプライチェーンマネジメント
- 従業員の人権、体と心の健康、ワークライフバランス、人材育成、多様性、労働慣行
- 地域・社会とのコミュニケーション
- 株主とのコミュニケーション

CSRの基盤
- CSRマネジメント
- コーポレート・ガバナンス
- コンプライアンス
- リスク管理
- 情報セキュリティ

JSRグループが
取り組む重要課題
●
安全・防災

「安全は、製造業に働くすべての人にとって最も大切なものであり、事業活動の大前提となる」という考えのもとに、安全活動を展開していきます。

安全モニュメント：
三つのモニュメントの外側は自然石のように荒々しく、危険要因や自然災害、慢心など予測できない要素を表しています。これに対しそれぞれの内側の正円は、「経営陣、管理者、従業員の、意志、知恵、実践」を表し、これら予測できないものを貫く安全を最優先する人々の思いを形にしたものです。
そして三つの正円が生み出す調和によって尊い人命は守られていることを、すべての人々に思い起こさせます。水平に広がる基壇は「意志、知恵、実践」を支える様々な背景や基礎であると同時に、尊い人命への平安なる鎮魂を表しています。

安全モニュメント（JSR（株）四日市工場　本館玄関前）
重大労働災害事故から学んだ教訓を風化させず、事故ゼロを目指すとの誓いと、尊い人命を守るために強固な安全文化を将来にわたって発展させる約束を込めています。

安全が大前提である組織行動実現に向けて

JSRグループは、安全はすべてのステークホルダーの暮らしにつながるものであり、企業にとっても経営の基盤となる課題と捉えて、「設備災害ゼロ」・「休業災害ゼロ」を目標に掲げて取り組んできました。

しかしながら2014年7月に四日市工場で重大労働災害事故が発生しました。JSRグループでは、この事態を重く受け止め、「安全は、製造業に働くすべての人にとって最も大切なものであり、事業活動の大前提となる」という考えのもとに、安全基盤と安全文化の再構築に向けて、安全な現場、健全な安全意識を取り戻すべく、2つのプロジェクト（PJ）を立ち上げ取り組んでまいりました。2つのPJの役割は右記の図に示した通り、安全基盤改革PJは主に安全基盤面の見直しと対策を行い、労働災害撲滅PJは労災撲滅設備対策と安全文化面の課題摘出と対策の提言を行いました。

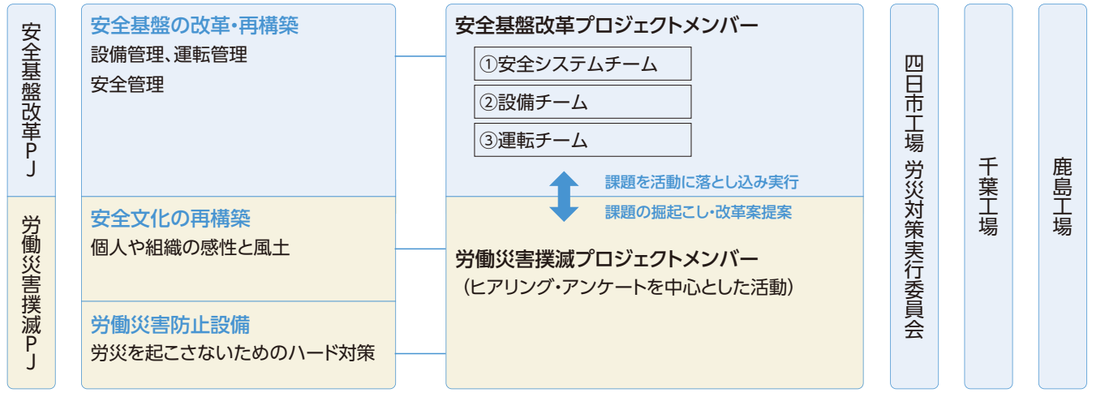
これら2つのPJは2015年度をもって終了し、現在の活動は2015年度に新たに設立した安全統括部と同部防災技術室によって強力に推し進められています。

2015年度の成果と課題

2015年度は安全基盤の骨格整備に注力しました。設備関連テーマは計画通り完了です。工場間接部門の強化、安全システムにつきましては2016年度に完了予定です。2016年度はテーマが完了したものから順に運用を開始し、2017年度の本格運用を目指します。安全文化につきましては、2015年度に実施すべき活動内容を確定しました。2016年度に順次運用を開始する予定です。

2014年に起きた重大労働災害事故から学んだ教訓を風化させず事故ゼロを目指す誓いと、尊い人命を守るために強固な安全文化を将来にわたって発展させる約束を込めて、翌年、安全モニュメントを四日市工場の本館前に設置し、事故が発生した7月23日に除幕式と安全式典を実施しました。今後毎年7月に「安全を誓う日」として全社で式典を行い、各自が1年間の安全活動を見つめ直す日としてまいります。

■安全基盤改革PJ、労働災害撲滅PJの役割



■2015年度の成果と課題

安全基盤			進捗※1	安全文化		進捗※1
設備	短期	労災防止に向けた設備対応	○	人	教育体制の見直し・力量評価の見直し	△
		安全設備基準の整備と運用	○		現従業員が運転を安全・安定に行うための標準類の整備	△
		安全基盤情報の整備・補完	○			
	長期	リスク評価と設備予算システムの再構築	○		教育・訓練の充実（体感研修、KY活動、災害事例活用等）	—
		計画的な遊休設備の撤去	○			
		PHA※2の本格導入	○		組織強化（人員の投入とベテランOBの活用）	△
	最新技術	運転監視支援システムの導入検討（アラームマネジメント、ICT活用等）	○		安全行動の定着（日常及び緊急時行動）	—
					双方向コミュニケーション（報・連・相）の充実	△
組織	製造部門	適正な組織サイズと運転体制への見直し	○	風土	安全・安定な生産能力見直し	○
	間接部門	安全専門組織の設置	○		安全の価値の浸透（安全の定義、理念等）	△
		工場間接部門の機能・体制の強化検討	△		規律を守る風土作り（安全基本ルール、構内保護具ルール等）	○
仕組み	安全システム	安全衛生マネジメントシステムの再構築（OHSAS※3ベース）	○		安全性向上の動機付け（安全表彰、人事評価等）	△
		実効性のある手順見直し（リスクアセスメント、監査等）	△		職場内、組織間の相互理解と協力体制の強化	—

※1 進捗：計画通り（○）、計画遅れ（△）、未着手（—）
※2 PHA（Process Hazard Analysis）危険物を取り扱うプロセスに対して、関連する危険性を特定し、評価管理する分析手法
※3 OHSAS（Occupational Health and Safety Assessment）労働安全衛生マネジメントシステムを構築・運用するための国際規格

対策前

対策後

搅拌器軸への巻き込まれ防止のため、保護カバー（パンチングメタル）を取り付けました

溶剤の燃焼・爆発を体感できる研修機器

JSRグループが
取り組む重要課題
●
環境負荷低減・省資源・
気候変動対策

社会に役立つもの、さらには地球環境に配慮していること。この両面を意識した事業の展開を目指します。

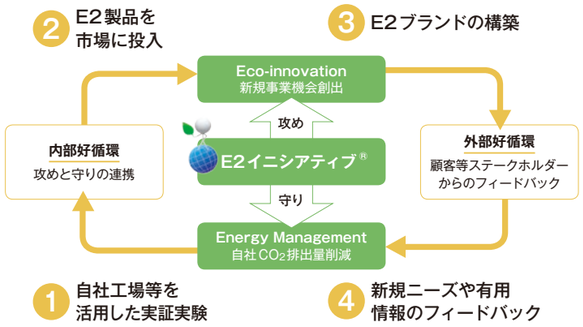
JSR グループが掲げる「E2イニシアティブ®」は、私たちが製品を作り、事業を展開していく上で「環境面での価値創出」を常に意識するための重要かつ明確な考え方です。また、事業活動を行う中で、環境負荷・資源・気候変動などの問題の解決に取り組むための考え方でもあります。

「E2イニシアティブ®」の展開で環境問題に取り組む

「地球」という惑星で人間と多くの生き物が共存していくために、私たちは環境問題に真剣に取り組まなければなりません。JSRグループでは、環境への負荷低減と、製品における環境面での新たな事業機会創出を両立するという視点から、「E2イニシアティブ®」という考え方を導入しています。

「E2イニシアティブ®」とは環境を軸とした事業機会の創出を図る「Eco-innovation」と、CO_2排出量削減を中心とした「Energy Management」、つまりは「攻め」と「守り」両面での価値創出を追求していこうとする考え方です。これは価値の軸をこれまでの「差別化」か「コスト」かの二元論から転換し、「環境性能」という軸と両立させることが不可欠になってきたことを反映しています。製品開発時の設計段階から製品の使用段階までを含めた「LCA(ライフサイクルアセスメント)」評価で「環境負荷」を捉えることで、事業を通じて環境問題に取り組んでいます。

■E2イニシアティブ®のコンセプト



低炭素社会を実現するリチウムイオン電池電極用バインダー

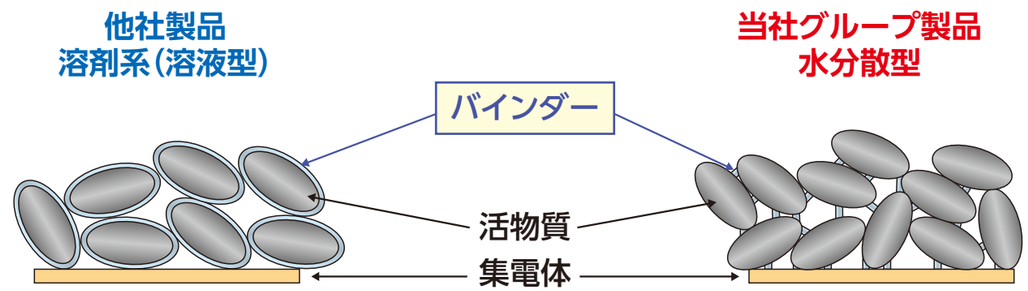
当社グループは、エネルギーの有効活用や低炭素社会の実現のために需要が高まっている、リチウムイオン電池の電極のバインダー(接着剤)を提供しています。

リチウムイオン電池は電気自動車やハイブリッド自動車の中に入っており、通常の乾電池同様、プラスとマイナスの電極があります。

これらの電極は、銅箔やアルミ箔(集電体)に、活物質と呼ばれる炭素材料や金属酸化物粒子を接着したものです。JSRグループが提供するバインダーは、この接着に使用されています。

当社のバインダーは、樹脂が水に分散したタイプで、環境負荷が少ないことに加えて、活物質間の導通の妨げになっていた樹脂の接着面積を大幅に下げながら接着することが可能となり(点接着)、電気抵抗が低い電極を作れるという特徴があります。

■水分散型は点接着となるため、電気抵抗を低くできます



当社グループのもつ高分子の設計技術、水系分散技術、電池性能評価の技術により可能にしました。

電気自動車だけでなく、パソコンや携帯電話、電気掃除機といった幅広い製品に当社グループの素材が使われています。

大幅なプロセスの簡略化と環境負荷低減を実現する溶融はんだインジェクション※1用マスクレジスト※2

ICチップ内のトランジスタや配線の微細化が限界に迫る中、ICチップを組み込みデバイスとして仕上げる半導体実装工程から、デバイスの高性能化を目指す動きが活発になっています。JSRと日本アイ・ビー・エム株式会社(以下、日本IBM)、千住金属工業株式会社(以下、千住金属工業)の3社は、半導体の最先端高密度実装を革新する溶融はんだインジェクション法(Injection Molded Solder; 以下IMS)を開発しました。

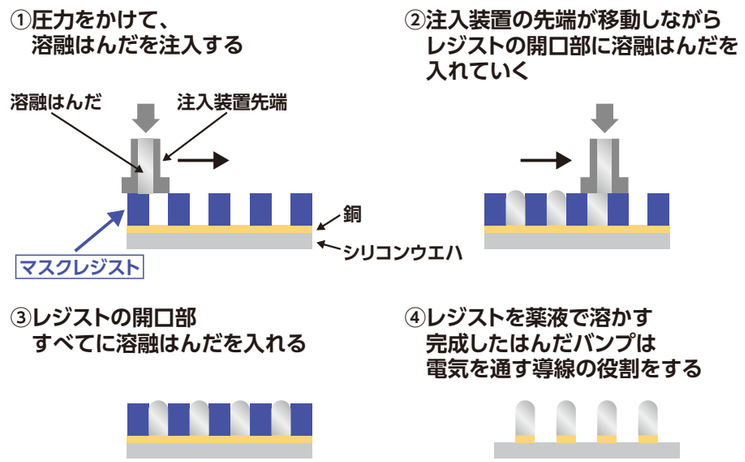
IMSは基板上に形成したマスクレジストの開口部に、専用の注入装置を用いて溶融はんだを直接注入する技術です。JSRが開発したマスクレジストは、はんだが十分に溶融する約250℃の高温に耐えることができ、基板上の任意の箇所に30ミクロンという微細はんだバンプ※3パターンが形成できるところまできています。

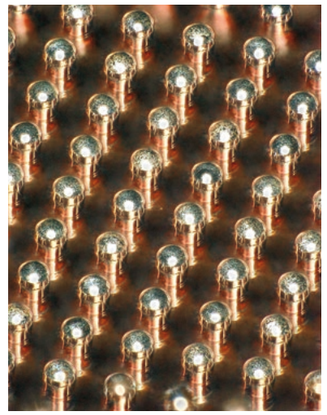
また、従来の電解めっき法で必要だった、大量のめっき液とそのメンテナンス、および大量の廃液処理が不要となる点、さらにはんだの使用効率が100%で無駄のでない点で、廃棄物が少なく環境にやさしいプロセスです。

この方法は、さらに従来手法対比で大幅なプロセス簡略化と環境負荷低減も実現しており、今後の普及が期待されています。

※1 インジェクション:注入すること
※2 マスク(フォト)レジスト:
光によって溶解性が変化する溶液。ウエハ上に塗布し、露光、現像することでパターンを形成することができる。ウエハの表面を保護する役割を持つ。
※3 バンプ:半導体を基板に電気的に接続するためにはんだを突起状に加工した接続電極

■インジェクション法によるはんだバンプ形成プロセス





完成したはんだバンプ
(バンプの直径:50ミクロン)

JSRグループが
取り組む重要課題
●
健康長寿社会

JSRグループはライフサイエンス事業を通じて、健康長寿社会の実現に役立つことを目指しています。

2035年には日本人の3人に1人が65歳以上になるという予測があります（総務省統計局調べ、2014年9月）。JSRグループは、超高齢社会における健康寿命や医療に関する様々な課題の解決につながる技術や製品を取り扱うライフサイエンス事業を第3の成長の柱と位置づけて、グローバルに取り組んでいます。

JSR・慶應義塾大学 医学化学イノベーションセンター（JKiC）イメージ図

JSRグループのライフサイエンス事業

超高齢社会の到来は、既に医療費の増大や、老々介護問題などをひきおこしており、日常的に介護を必要とせずに自立した生活ができる健康寿命の延長が日本の喫緊の社会課題です。将来的には、一人ひとりに合った治療を提供できるようになる「個別化医療」が発展して、健康寿命の延長に貢献すると考えられます。また難病の早期治療が可能となる効果の高い治療法や医薬品の開発や診断技術の進歩によって病気を早期に発見が可能となるなど医療の形態が変化していくことが考えられます。

「個別化医療」などに貢献するJSRグループのライフサイエンス事業は、これまで多角化事業のひとつという位置づけでいましたが、事業規模の拡大を踏まえ、ファイン事業と並ぶ新たな柱として位置づけなおしました。

ライフサイエンス事業の取り組み体制

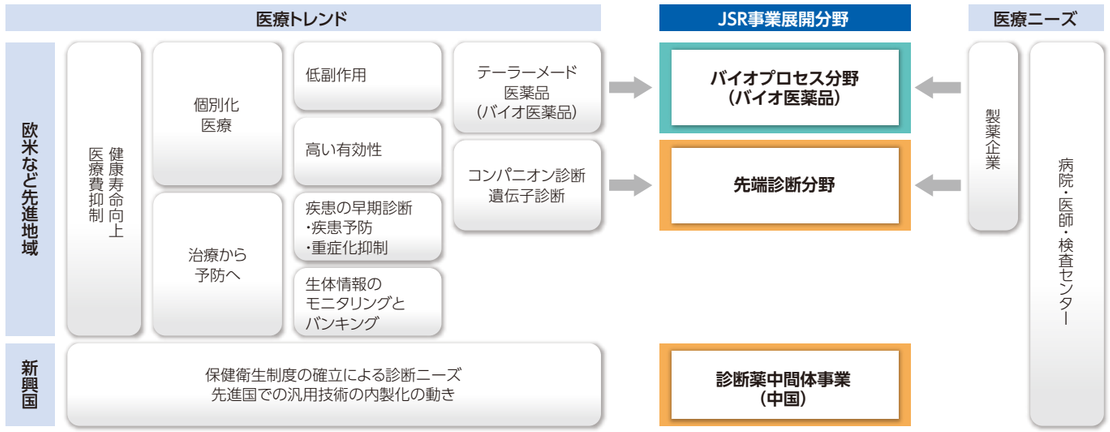
JSRグループは、実際に診断薬が使われる医療現場や、バイオ医薬を製造する現場に積極的に関わり、そこからのフィードバックを得ながら世の中から求められる技術を見極め、製品を開発していきます。そのためにこれまでのJSRグループにない、医療分野独特のノウハウや技術、許認可取得の知見を持った他社との協働や連携をしています。優れた技術を有する企業との資本業務提携を進め、素材に強みを持つJSRグループをエンドユーザーまで繋げ、最終製品を使用する製薬企業や医療現場の期待にスピーディかつ的確に応えていきます。

バイオ医薬品を支えるバイオプロセス材料

～がん細胞や病気の原因を狙い撃ちできる薬の製造プロセスに使用されるJSRグループの製品～

バイオ医薬品とは、バイオテクノロジーを用いて開発・製造される医薬品です。バイオ医薬品の3本柱が、抗体※医薬・タンパク質医薬・核酸医薬で、特に抗体医薬は、がんや難病の治療分野で、有効性が高く副作用が少ない医薬品として近年急速に開発・採用が進んでいます。

抗体医薬はまず、微生物や細胞を培養し、大量に抗体を生合成させます。次に培養液中から抗体を回収し、精製します。当社グループのライフサイエンス事業は、この抗体医薬の精製工程で用いられるバイオプロセス材料を提供しています。ここでは、技術とコストの両面が課題になっています。精製工程の技術が進歩すると、抗体医薬の製造コストを抑えて普及に繋げられます。また、新たな機能を持つ抗体医薬の製造が可能となります。

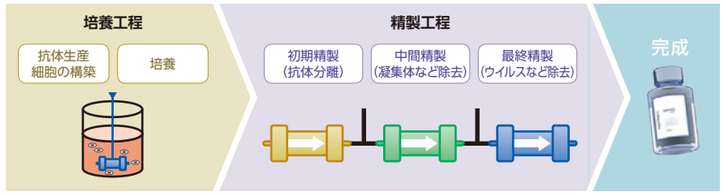


当社グループの新製品「Amsphere™（アムスフェア）A3」は、液中から必要な抗体医薬成分を回収するための初期精製に用いられるカラム用担体です。従来品よりも多量の抗体を効率よく回収することができ、繰り返し使用しても性能が低下しにくく、純度の高い抗体を効率的に得られる特徴があります。また機械的強度が高いので高流速での精製に対応でき、この点でも効率化が望めます。「Amsphere™ A3」は、2015年10月、Bio Process International Conference & Exhibition2015で発表し、2016年1月に販売開始しています。

JSRグループは抗体医薬の製造プロセスに、戦略的パートナーを拡大しつつ貢献していきます。さらに、次世代抗体医薬やその他バイオ医薬品の研究開発を推進するための試薬なども提供していきます。

※抗体：
体内の異物を排除する免疫システムなど防御反応を活性化する生体分子。生物由来物質であるタンパク質からなる

■バイオ医薬品製造工程簡略図（抗体医薬品の例）



慶應義塾大学との共同研究において、3Dプリント義足の途上国での実証試験を実施しました

当社と慶應義塾大学SFC研究所は、その共同研究において生体適合性エラストマーからなる3Dプリンタ用樹脂FABRIAL®（ファブリアル）Rシリーズと、その3Dプリンティング技術を開発しました。この成果を活かし、慶應義塾大学SFC研究所員が、当社、ならびに経済産業省フロンティアメーカーズプロジェクトからの支援を受け、フィリピンにおいて3Dプリンタで製作した義足の実証試験を行いました。

フィリピン国内では、120万人の足切断者がいますが、年間に470本しか義足の製造ができないため手元に届かず、外出できない人がいます。また、義足は高額であり購入することが難しいのが現状です。

一方、3Dプリンタから製作された義足は調整が容易、パーツ交換可能、重量が軽い、比較的安価といった特色をもっています。JSRの3Dプリンタ用樹脂FABRIAL®のもつ柔軟性が、義足の切断された足に接する部分に使用されており、足への負担を軽減しています。JSRグループは、FABRIAL®を通じてヘルスケア領域の発展に今後も貢献していきます。

JSRグループが
取り組む重要課題
●
ステークホルダーとの
コミュニケーション

社会に役立ち必要とされるために、様々なステークホルダーとのコミュニケーションを深化させます。

JSRグループが経営方針として定めるステークホルダーへの責任には
●顧客・取引先への責任
●従業員への責任
●社会への責任
●株主への責任
があります。
それぞれのステークホルダーと相互理解を深め、期待に応えていく。またステークホルダーとの協力やコミュニケーションを通じて社会に新たな価値を創出することを目指しています。

近隣小学校の食育活動へ参加。発表会の様子
(JSR Micro Taiwan Co., Ltd.)(台湾)

顧客・取引先への責任

お客様とのコミュニケーション

JSRグループの企業理念は、「Materials Innovation－マテリアルを通じて価値を創造し、人間社会(人・社会・環境)に貢献します。」です。お客様のニーズに合った「革新素材」「良い製品」を提供し、より良い社会の実現に貢献していくことは、JSRグループの最も重要な役割であると考えています。また、お客様に安心して製品をお使いいただけるよう、JSRグループでは、品質保証活動、製品安全に対する取り組みにも力を入れています。

1. Pirelli Global Stakeholder Dialogue への参加

2016年2月4日、Maison de l'Automobile(Brussels)にて開催された、Pirelli Global Stakeholder Dialogueに参加しました。本Dialogueは、Pirelli社が2020年に向けて進めているIndustrial & Sustainability Planについて、各種ステークホルダー(policy side, academics, suppliers, financialcommunity, customers and NGOs)からの意見を得る目的で開催されたもので、JSRはサプライヤーとして参加しました。

2. インテル コーポレーションから「サプライヤー・コンテニュアス・クオリティー・インプルーブメント(SCQI)賞」を受賞

世界的な半導体メーカーであるインテル コーポレーション(米国カリフォルニア州)から、供給企業に贈られるもっとも栄誉ある賞であるSCQI賞を受賞しました。8年間で7回目の受賞です。当社グループの先端リソグラフィー材料、CMP材料および高機能化学品が、卓越した成績を達成したことが認められたものです。

3. LG Displayからベストサプライヤー賞受賞

韓国の2大LCDメーカーのひとつであるLG Display社(LGD)の同伴成長※新年会が開催され、JSRはベスト・サプライヤー賞を受賞し、記念の盾と、副賞として55インチのOLED(有機EL方式)テレビをいただきました。

※同伴成長：韓国において2010年から言われている、大企業とパートナー企業がバランスよく成長することを意図した表現

ベスト・サプライヤー賞授賞式

従業員への責任

ダイバーシティ

JSRが2016年3月になでしこ銘柄※に選定されました

当社は女性活躍推進に優れた上場企業として、経済産業省と東京証券取引所により2015年度なでしこ銘柄に選定されました。「なでしこ銘柄」の選定過程では、「女性のキャリア促進」と「仕事と家庭との両立サポート」について評価が行われます。

当社は、様々なことをグローバルに展開し、多岐にわたる事業戦略を推進していくために多様な人材を活用することが非常に重要であると考えています。女性活躍推進にとどまらず、「個人」のもつ多様な価値観を尊重する風土づくりを引き続き目指してまいります。

※「なでしこ銘柄」は、「女性活躍推進」に優れた上場企業を「中長期の企業価値向上」を重視する投資家にとって魅力ある銘柄として紹介することを通じて、企業への投資を促進し、各社の取組を加速化していくことを狙いとしています。(経済産業省ホームページより抜粋)「女性のキャリア促進」と「仕事と家庭との両立サポート」について、経営層のコミットメントを含む「マネジメント」と実際の「パフォーマンス」から対象企業を評価し、かつ財務面の基準を満たした企業が選定されました。2015年度は45社が選定されています。

従業員への責任

体と心の健康支援

従業員の体と心の健康は、従業員とその家族の幸福な生活のために、また職場の生産性および活気のある職場づくりのために非常に重要です。

当社は体の健康支援として、各種健康診断を実施するとともに、人間ドックや脳ドック受診へ補助金を支給しています。またJSR健康保険組合主導のもと、生活習慣病予防のための特定健康診査と、事業主との協働による特定保健指導を実施し、成果を上げています。

心の健康支援については、働く人々の健康に関する問題が注目され始めた初期より、メンタルヘルス向上の施策に取り組んでいます。Webによるストレス診断の実施、社外相談窓口の設置、産業保健スタッフの対応の充実、各階層別研修でのメンタルヘルス教育を実施しています。

転倒予防体操実施の様子(株式会社 エラストミックス)

社会への責任

社会福祉

JSRグループでは、国内/海外拠点ともに社会福祉に関する活動を実施しています。

JSR(Shanghai)Co.,Ltd.(中国)は、電子材料の顧客であるSemiconductor manufacturing International Corp.が後援している貧困家庭の子どもへの肝臓移植プログラム(芯肝宝貝)に賛同し、2015年6月に寄付金を拠出しました。また、JSR Micro, Inc.(アメリカ)では、会社の近隣にあるホームレスシェルターへ、集めた服や靴下、毛布を提供しています。各拠点の自主的取り組みとして、献血活動も実施しています。

献血活動(JSR Micro Korea Co., Ltd.)(韓国)

社会への責任

教育・社会教育

JSRグループでは、国内外の拠点において従業員の化学の知識を活かし、児童や学生の教育に貢献しています。JSR鹿島工場では、中学生106名を対象に「出前授業」を行いました。授業内容は、「ゴムの合成」「弾むボールと弾まないボール」「割れないプラスチック」の3つの実験を行い、JSRのイメージキャラクターである分子君を用いて、分子と素材の特性の関係をわかりやすく説明しました。

出前授業(JSR 鹿島工場)

社会への責任

清掃活動

JSRグループでは、国内/海外拠点ともに近隣道路や海岸、河川等の清掃活動を継続して実施しています。JSR BST Elastomer Co., Ltd.(タイ)は、「オーシャン・コンサーバンシー」というアメリカの非営利団体が主催する国際海岸クリーンアップ活動に初めて参加しました。従業員とその家族が参加し、教育機関、コミュニティのボランティアと協力して海岸を清掃しました。

また、JSR四日市工場では定期的に近隣清掃活動を実施しています。

近隣の清掃活動(JSR 四日市工場)

社外からの評価／JSRグループ概要

SRI指標および銘柄への組み入れ (2016年6月30日現在)

JSRグループのCSR活動は、外部評価機関より評価を受けています。活動を評価した以下のSRI（社会的責任投資）指標や銘柄に組み入れられています。

FTSE4Good

当社は「FTSE4Good Index Series」が設立された2004年より継続して組み入れ銘柄として選定されています。

EURONEXT vigeoeiris

「EURONEXT VigeoEiris World 120 Index」に世界120社のうちの1社として選定されています。

MS-SRI

2016年1月4日

2009年より、日本国内の代表的なSRI指標である「モーニングスター社会的責任投資株価指数※」に選定されています。

2015年6月11日に、国際的なSRI銘柄である「Ethibel Pioneer & Excellence Investment Registers」に再選定されています。

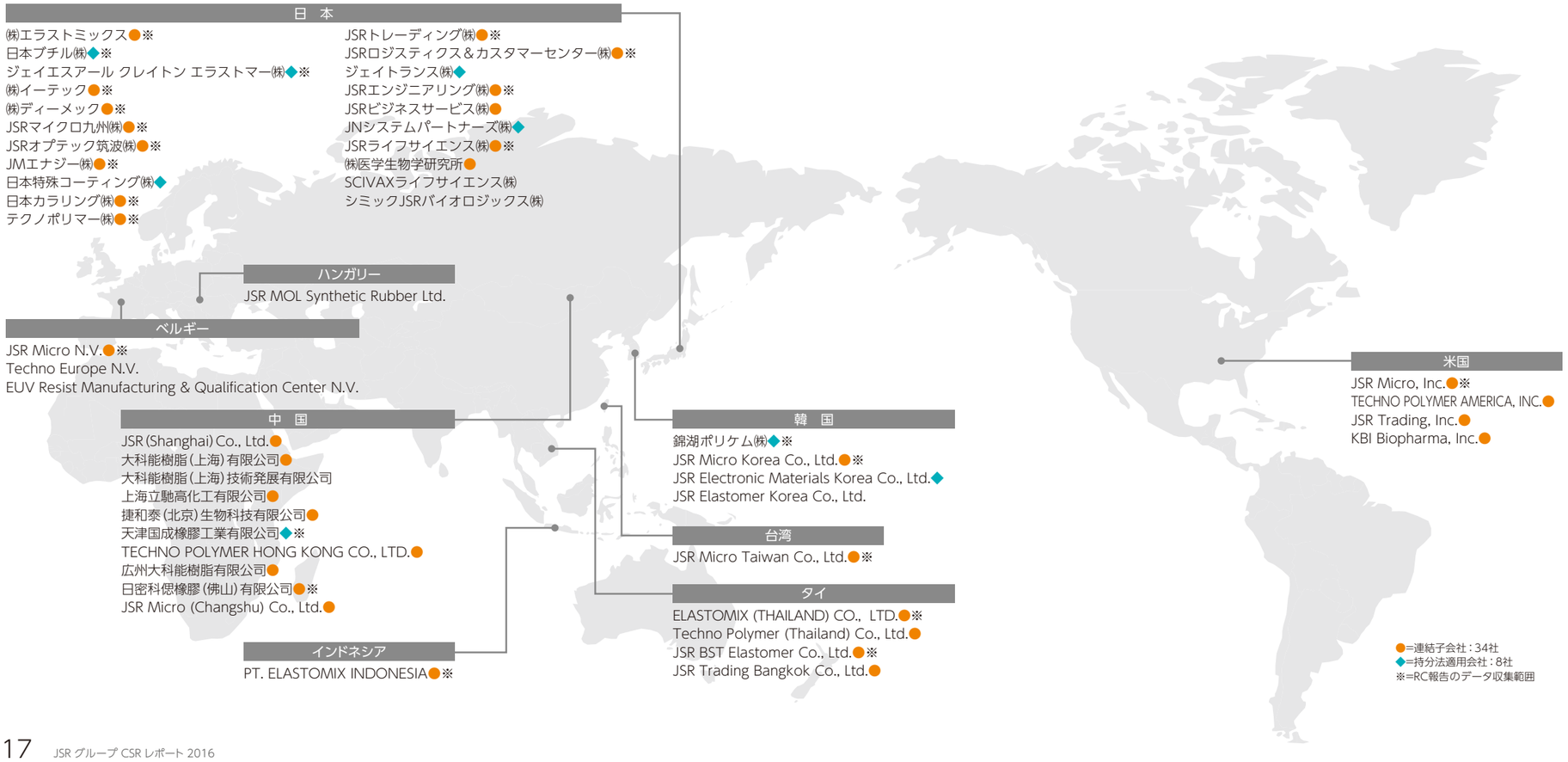
※「モーニングスター社会的責任投資株価指数」は、国内上場企業の中から社会性に優れた企業と評価する150社を選定した社会的責任投資株価指数です。本株価指数は、将来のパフォーマンスを保証するものではなく、いかなる責任も負いません。著作権等一切の権利はモーニングスター株式会社並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

NADESHIKO BRAND 2016

2016年3月、女性活躍推進に優れた上場企業として、経済産業省と東京証券取引所により2015年度「なでしこ銘柄」に選定されました。

なお、その他「Global Compact 100」が設立された2013年度より構成銘柄として継続して選定されています。

JSRグループ一覧 (2016年3月31日現在)



JSR本体概要 (2016年3月31日現在)

会社名	JSR株式会社（JSR Corporation）
設立年月日	1957年（昭和32年）12月10日
本社所在地	東京都港区東新橋一丁目9番2号 汐留住友ビル
代表取締役社長	小柴 満信
資本金	233億円
従業員数	6,587名（連結）

JSR本体事業所一覧 (2016年3月31日現在)

ブランチ	名古屋ブランチ	愛知県名古屋市
工場	四日市工場	三重県四日市市
	千葉工場	千葉県市原市
	鹿島工場	茨城県神栖市
研究所	機能高分子研究所	三重県四日市市
	ディスプレイ材料研究所	三重県四日市市
	精密電子研究所	三重県四日市市
	先端材料研究所	三重県四日市市
	筑波研究所	茨城県つくば市
海外	スイス支店	スイス
	シンガポール支店	シンガポール
	台湾支店	台湾

（注）当社は2015年9月14日付けで台湾支店を設立し、台湾事務所の業務を移管いたしました。

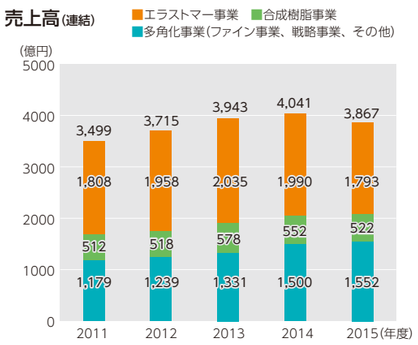
JSRグループ主要事業 (2016年3月31日現在)

下記製品の製造および販売

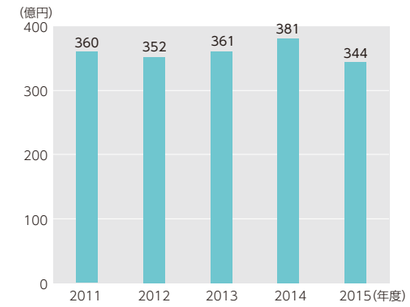
事業区分			主要製品
石油化学系事業	エラストマー事業	合成ゴム	スチレン・ブタジエンゴム、ブタジエンゴム、エチレン・プロピレンゴム等の合成ゴムおよび精練加工品
		熱可塑性エラストマー	熱可塑性エラストマーおよび加工品
		エマルジョン	紙加工用ラテックス、一般産業用ラテックス、アクリルエマルジョン、原料ラテックスの精製加工品、等
		機能化学品	高機能コーティング材料、高機能分散剤、工業用粒子、潜熱蓄熱材料、遮熱塗料用材料、電池用材料、等
		その他	ブタジエンモノマー等の化成品
	合成樹脂事業		ABS樹脂、AES樹脂、AS樹脂、ASA樹脂等の合成樹脂
多角化事業	ファイン事業	半導体材料	リソグラフィ材料（フォトレジスト、多層材料）、CMP材料、実装材料、等
		ディスプレイ材料	カラー液晶ディスプレイ材料、反射防止膜材料、機能性コーティング材料、等
		光学材料	耐熱透明樹脂および機能性フィルム、光ファイバー用コーティング材料、光造形・光成形、等
	戦略事業・その他		ライフサイエンス（診断・研究試薬および同材料、バイオプロセス材料、バイオプロセス開発・製造受託）リチウムイオンキャパシタ、等

財務情報

売上高(連結)



営業利益(連結)



Materials Innovation

JSR

可能にする、
化学を。

JSR株式会社
CSR部
東京都港区東新橋1-9-2
汐留住友ビル 〒105-8640
Tel:03-6218-3518
Fax:03-6218-3682
http://www.jsr.co.jp

森の町内会
間伐に寄与した紙
www.mori-cho.org
この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

FSC
www.fsc.org
ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C014687

VEGETABLE OIL INK

Waterless
Printing. Naturally.